

私たちは周りから入ってくる情報をどのように聞き判断しているでしょうか？インターネットや人から聞きする情報を一方的な話だけで、判断してしまうことはないでしょうか。今回の聖書箇所にも偽りの情報によって誤った判断をしてしまった出来事が出てきます。ローマの非常な迫害下の時代であっても、初代教会は福音を述べ伝え続け多くの人々が救われていた時代でした。しかし、キリスト者が集まるとそこには違った教えをばらまく人たちもいたのです。当時のローマ帝国は異端の教えを広めるために男性を好色によって誘惑するような風潮がありました。人々は誘惑され多くの人々が道を外れてしまいました。現代の私達の周りにも偽りの情報が溢れています。教会の中でも例外ではありません。吹聴の情報はあります。だからこそ、聞く情報に対して私たちはどのように対処していくか、学んでいきたいのです。

■ 一部の情報だけを見て判断していないか

私たちは偽りの情報に惑わされ、偽りの情報を聴いて信じてしまう事があります。教会の中でも人のうわさ話などあなたを間違えた道に導くような情報があります。偽りの情報によってあなたは真理の道からそしりを受けるようになります。偽りの情報を聴いて惑わされることに問題があるのです。あなたの耳元でささやかれる偽りの情報に聞いて影響を受けてしまいます。だから偽りの情報に耳を貸してはいけません。

■ ノア

創世の時代から次第に人間は神様に罪を犯し、不貞に陥っていきました。神様が肅清をしようとしたときノアとその家族へは箱舟を造って洪水から逃れるように命じられます。ノアは神様の声に従い山の頂上に船をつくります。そこには周りの人々からの批判や惑わそうとする、たくさんの悪い声がありました。しかし、それらには惑わされず、ノアは箱舟を完成させました。ではノアは正しい人だったから救われたのでしょうか。そうではありません。聖書には義人は一人もいないと書かれています。ノアの周りにはノアを惑わそうとするたくさんの情報がありました。ノアにも葛藤があったはずですが、その中でも、神様を信じてやり続けました。葛藤と戦って洪水から救われたのでした。

■ ソドムとゴモラ

ソドムとゴモラの街を破滅に定めて灰にし、以後の不敬虔な者へのみせしめとされました。無節操な者たちの好色な振る舞いによって悩まされていた義人ロトを救いいただいたということが書かれています。ロトはただしい人だったのでしょうか。

『というのは、この義人は、彼らの間に住んでいましたが、不法な行いを見聞きして、日々その正しい心を痛めていたからです。』(Ⅱペテロ 2:8) 私たち人間は正しい人など一人もいません。なにか失敗したとき、言ってはいけないことを言ってしまったとき、諦めないで本当の自分に戻ろうとすることが大事なのです。

ノアやロトは「自分はこれでよいのか？」と向き合う姿勢でした。2:10『汚れた情欲を燃やし、肉に従って歩み、権威を侮る者たちに対しては、特にそうなのです。彼らは大胆不敵な、尊大な者たちで、栄誉ある人々をそしって、恐れるところがありません。』(Ⅱペテロ 2:10) 情欲とは物に対する欲や人からの評価を期待する心、欲によって人のものを奪い去っている。それが肉に従って歩むということです。逆に義人とは、自分の心の中にある欲に対してこれだはいけないと向き合おうとする姿勢です。眠気や食欲、物欲、自分の評価をあげようとする欲。人間が墮落するのは自分にとって大切なもの以上に目先の欲を得ようとするときです。自分の評価をあげるために相手をおとしめます。人のうわさ話を自分から話したり、それを聴いてしまうのも罪です。もし、聞いたならば、責任があります。解決まで導かなければなりません。一番は祈ることです。そして、神様がせよと言われたことを行うのです。

■ バラムの道 (民数記 22-24 章)

バラクというエドムの王がいました。エドム人というのはロトが自分の娘との間にできた子どもの一人からできたのがエドム人です。エドム人はイスラエルと敵対していました。カナンを目指しているイスラエルの民三百万人を目の前にしてエドムの王バラクは恐れます。そこで、王バラクは呪術師であるバラムを呼びます。(バラムは混血であり、墮落していたが、神様の事はよく知っていた) バラク王はイスラエルの民を呪うように命令しました。(バラムは金銭的、性的に弱い面があった) 王バラクにお金をしめされ誘惑されます。神はバラクのところへ行つてはならないと止めます。バラムはその誘惑を断ち切れないまましていると神はバラクのところへ条件をつけて行くことを認めます。しかし、神様はものをいうロバによってバラムを目覚めさせます。これによって、バラムがバラクの所に行くのは神の本意で無かったことが読み取れます。バラムは神様が出された条件のとおり、必要な事しか語りませんでした。バラムはひとたび神に従ったようですが、結果的にはエドム人は罪によって滅んでしまうのでした。民数記は神に従った人と、従わなかった人の記録です。

ペテロは誘惑について繰り返し語っています。正しく振舞ったように見えても人の心の根底にある欲はその人の人生を結局、破滅に向わせます。ですから、惑わしの声を聞かないことが重要なのです。神様はエドムという悪があったのちにもイスラエルの民が神の守りの中にあることを知らしめたのでした。悪は神の土台を壊そうとしますが、しかし、神はその上に十字架を建てることのできるのです。

■ 真理とは何か？

私たちの周りにはたくさん問題が起きます。問題を解決しようとして人を批判したりすることが問題解決になるのでしょうか。また、問題が起きるからやめることが正しいのでしょうか。そうではなくて、最善は何かを判断しなければなりません。何が真理でしょうか。聖書が伝えている真理は愛です。

ヨハ 14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」

私たちは周りの人たちの声を、愛をもって聴かねばなりません。間違っていることをしている人をまず愛して、愛が届く方法を選ぶのです。そのうえで祈って情報を処理しなければなりません。間違った判断をしてしまう人に気を付けるよう言っているのではなく、そのような人から影響を受けるのではなくその人を愛することを伝えたいのです。北から情報を聴いたなら、東、西、南、あらゆる方向から聴き、神様の声に聴き従い、神様に解決していただくのです。

まとめ…

ルールがあなたを縛るものではありません。愛があなたを自由にします。そして誘惑は私達のただ中にある事を忘れてはなりません。愛には「するべき時」と「してはならない時」があります。それを判断するのは「神のことば」しかありません。御言葉によって分別できる力が与えられるように祈りましょう。

15:22 するとサムエルは言った。「主は【主】の御声に聞き従うことほどに、全焼のいけにえや、その他のいけにえを喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。

15:23 まことに、そむくことは占いの罪、従わないことは偶像礼拝の罪だ。あなたが【主】のことばを退けたので、主もあなたを王位から退けた。」(1サムエル記 15:22～23)

(要約者：澤口明子)

(2021年8月8日)